

日 本 大 学
生物資源科学部

校友会会報

2025 年(令和 7 年) 第78号



生物資源科学部本館

《目 次》

学部長挨拶.....	2	満喜葉会（動物資源科学科）.....	13
会長挨拶.....	3	いもづる会（食品ビジネス学科）.....	14
令和 7 年度総会・懇親会	4	あすなろ会（森林学科）.....	15
令和 6 年度校友会収支決算書	5	桜水会（海洋生物資源科学科）.....	16
令和 7 年度校友会収支予算書	5	工学会（生物環境工学科）.....	17
校友だより（工学会）.....	6	F T 会（食品生命学科）.....	18
校友だより（拓友会）.....	7	拓友会（国際地域開発学科）.....	19
校友だより（応用生物科学科校友会）.....	8	応用生物科学科校友会（応用生物科学科）.....	20
校友だより（くらしの生物学科校友会）.....	9	くらしの生物学科校友会（くらしの生物学科）.....	21
富獄会（生命農学科）.....	10	支部だより（宮城県支部、山形県支部）.....	22
紫友会（生命化学科）.....	11	支部だより（神奈川県支部、高知県支部）.....	23
角笛会（獣医学科）.....	12	校友会からのお知らせ.....	24

「生物資源科学部の現在と未来へ向けて」

生物資源科学部長
関 泰一郎

生成AIやデータサイエンスをはじめとする科学技術の革新、さらに気候変動や地政学的リスクといった社会環境の急激な変化により、現代の学生が学ぶべき内容はますます高度化・多様化しています。このような状況のなかで、大学生は知識を吸収するだけでなく、自ら課題を見出し、新しい解決策を創り出す力が強く求められています。日本大学生物資源科学部は、長い歴史と伝統を基に、常に新しい挑戦を続け、未来を切り拓く人材の育成に取り組んでまいりました。

本学部は、昭和18年に農学部として設立され、昭和27年には東京獣医畜産大学との合併により農獣医学部として発展しました。その後、平成8年に改組され「生物資源科学部」として新たな一步を踏み出し、今日に至っています。平成12年には大学院農学研究科も「生物資源科学研究科」へと改組され、生命・食料・資源・環境に関する学問を広く展開し、国際社会が直面する課題の解決に貢献してきました。



6月に当学部を含む11会場で開催された「日本大学ワールドカフェ N-MIX」。今年度入学した16,212名の新入生の多くが参加し、学部・学科を越えた交流を通じて大学での学びや日本大学の特色への理解を深めました（写真中央左は大貫学長@生物資源科学部中講堂）。

特に、環境保全や食料安全保障といったSDGsに直結する分野においては、SDGsが提唱される以前から先駆的な研究を進めてきた実績を誇っています。令和5年の大規模な改組を経て11学科体制となった現在、社会の変化やニーズに対応した最新カリキュラムを備え、学生一人ひとりが幅広い知識と専門性、そして社会を動かす力を身につけられる環境を整備し、改組の完成へと向かっています。グローバルな教育と研究の推進にも注力し、国際交流のさらなる強化に向けた活動を展開しています。今年度も複数の学科において台湾の大学との交換留学や海外での実習を実施しました。学部主催のマレーシアでの海外研修に加えて、全学的な海外研修であるニューカッスル・グローバル研修やケンブリッジ大学での研修には、生物資源科学部の学生が積極的に参加し、国際的視野と実践力を養っています。これらの経験は、キャンパス内での専門教育だけでは得られない貴重な学びとなり、学生のキャリア形成に大きな糧となっています。

一方、少子化や定員管理の厳格化など大学を取り巻く環境は大きく変化し、経営的な側面からも一段と厳しさを増しています。本学部の学生数も平成28年度の7,220名から令和7年度には6,600名規模へと変化しました。この変化を転機と捉え、少人数教育の実施、学生が主体的に研究や社会貢献活動に取り組む機会を増やすことで、課題解決能力を磨き、卒業後に多様な分野で即戦力となるよう、教育を充実させてまいります。

また、併設校や地域社会との連携も強化しています。小学生を対象とした夏休み宿題相談会、高校生を対象としたバイオサイエンススクール（BSS2025）、女子生徒の理系分野への進路選択やキャリア形成を支援する「サイエンススクール for ガールズ」（SSFG2025）を開催し、次世代育成を積極的に推進しています。さらに本年10月25日には、高校の生物部・科



学部に所属する生徒を対象に「サイエンスサミット in 湘南」を開催する予定で、若い世代が研究発表や交流を通じて科学の魅力に触れる機会を提供します。湘南キャンパスに広がる農場や演習林、動物病院、総合研究所、さらに下田臨海実験所、水上演習林や八雲演習林など、学外に広がる教育・研究フィールドは、これらの活動を支えています。

日本大学の教育理念は「自主創造」です。「自ら学び」「自ら考え」「自ら道をひらく」力を身につけるために全学共通教育科目を通じた幅広い学びを導入すると同時に、学部横断的な「ワールドカフェ」を実施し、学生同士が自由闊達に意見を交わす場を設けています（写真）。これらの取り組みは、専門分野の枠を越えた交流を促進し、学生の帰属意識を高めるとともに、新たな発想や価値を生み出す契機ともなっています。

生物資源科学部は、創設以来培ってきた歴史と伝統を大切にしながら、未来を見据えた教育・研究を推進しています。生命・食料・資源・環境をつなぐ総合的な学問体系を軸に、国際的に活躍できる人材の育成と、持続可能な社会への貢献を続けてまいります。校友の皆さまには、引き続き本学部へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、令和3年度以降に卒業された方に付与された日本大学のメールアドレスは、卒業後も引き続きご利用いただけます。対象となる校友の皆さまには、不定期ではありますが、学部の近況や学部祭などのお知らせを試験的に配信しております。ぜひ併せてご覧いただければ幸いです。

「第78号校友会会報発刊に向けて」

生物資源科学部校友会 会長

鳥海 弘

(昭和50年 獣医学科卒)

日本大学生物資源科学部校友の皆様方に於かれましては、各々の分野でご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。長い間 人々の行動を大きく制限してきた新型コロナウイルス感染症の影響は、ほぼ払拭され本来の生活様式に戻りました。

本学部校友会の活動は予定された本来の事業を執行できました。

令和7年度生物資源科学部校友会通常総会は、7月12日に多くの会員の出席の下、開催いたしました。通常総会では報告事項1件と協議事項4件の議案を上程し、すべての議案が滞りなく承認されましたので、今後の活動の指針といたします。総会にて多くの闊達なご意見を頂戴いたしました。中には校友会でなく、大学に対し、次々と明るみになる不祥事を危惧するご意見等をも多く頂戴いたしましたし、校友会に対する意見の中にも大学本部校友会に対してお意見もありましたので機会を見て本部校友会に伝えます。

昨年に続いて総会終了後には懇親会を学食棟にて開催いたしました。ご多忙の中、日本大学本部から、副学長・ソコロワ山下聖美様、日本大学校友会本部 副会長・経済学部校友会会長 武居 弘市様、他学部校友会会長、ならびに生物資源科学部長 関 泰一郎様はじめ学部執行部、都道府県支部、桜門会の方々、さらに附属小学・中学・高等学校の校長先生等の計26名のご来賓のご臨席を賜り、総勢100名を超える皆様をお迎えして懇親会を盛会に開催できました。このように多くのご来賓をお迎えして情報交換が開催出来ますことは、本学が日本一の総合大学であるからこそ成し得る賜物です。今後もこの特徴を生かし皆様のご協力を得て組織の充実を図っていきます。

さて本学部校友会活動ですが、大学本部校友会からの還付金が準会員に対する主要な活動資金源ですが、準会員が納付した金額に対し、3年前に本来の還付率60%から4年をかけて年5%ずつ漸減し、

最終的に40%が学部校友会に還付されるのが一方的に通知されましたが、昨年来から開催された本部校友会役員会等にて、度々意見を述べ減額停止を要請したところ、とりえず現状維持の50%の還付で据え置く事となり、本部校友会内に会費制度検討特別委員会が設置され検討がなされてきたところです。

本年8月には校友会本部執行部の一方的方針により、本学部校友会を含め還付金減額停止を求める4学部校友会は、不正調査等を専門とする公認会計士ならびに弁護士らによるヒヤリングを受けました。3時間超を越えて本会の事業内容ならびに会計報告等を説明したところ、本会の活発な活動と適正な運営を理解いただいたものと推察いたします。本件については本部から何の事前説明もなく、たかだか数千万円の予算(本部からの還付金は3,000余万円)の中で運営している学部校友会に対して数百万円の費用をかけてまでヒヤリングを行う意義は理解できません。

本会を含む4学部校友会から提出してある昨年度までの過去資料に対して、本部の会費制度検討特別委員長から、調査・精査・検討・議論した結果の答申が既に出されているにも関わらず、何が何でも4割に減額したいが故に、本年度の事業計画にも予定されていない手当たり次第の策が実施されました。来年2月に開催される本部校友会役員総会にて最終方針が決定されますので、これらから本学部校友会の今後の運営には大幅に予算を緊縮した運営が求められることが予測されます。

このような状況下ではありますが本学部校友会は活発に活動している組織です。それは本学部校友会が12分会+1準分会の集合体であり、各分会が独自に活発に活動しているからです。しかしこの状況も令和5年4月から始まった学部の改組により(12学科が11学科)7つの分会(富嶽会、紫友会、満喜葉会、工学会、拓友会、応用生物科学科校友会、くらしの生物学



科校友会)をどう継承するか大きな課題となっております。当該分会においては議論検討がなされておりますが、既存の校友会分会を継承できない、また新設された学科の6つの校友会分会(バイオサイエンス、動物、環境、アグリサイエンス、国際共生、獣医保健衛生学科)がまだ設立されておりましたが、拓友会と新学科の国際共生学科が「拓友会」を継承し活動していく方針であることが6月の幹事会にて報告されたことは明るいニュースです。他の分会にも是非、参考事例として検討をお願いしたいところです。

本会の活動は、11万余名の同窓生を対象にしておりますが、将来、在校生が校友会に関心を持ち入会・活動していただくためにも、在校生である準会員向けの事業にも重点を置いております。本方針は将来のための布石ということで今後も継続して推進していきますので、皆様のご理解・協力を得て組織の拡充を図っていきます。

社会はデジタル化の時代とはいえ、本年も第78号校友会報を発刊する運びとなりました。校友諸兄に本誌を拝読して頂き、改組された学部の現況や各分会の活動をお届けできれば幸いに存じます。総合大学である本学の特色を生かし「学生・教職員・学部・校友会」という強固な「絆」で形成された校友会活動への積極的な参加をお願いし、校友会の目的である会員相互の親睦を図り、母校の発展ならびに社会貢献をお願いする次第です。

末筆となりますが、校友の諸兄にはこの社会情勢下ではありますが、健康に十分に留意され、ご活躍されますことを祈念申し上げ巻頭の挨拶といたします。

令和7年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会の報告について

令和7年度の通常総会及び懇親会を令和7年7月12日(土)に開催しました。以下のとおりご報告します。

○通常総会

日本大学生物資源科学部本館14階 NU ホール A において午後1時30分に松宮幹事長が開会を宣言し、70名の会員にご出席をいただき、議長には工学会会長で学部校友会副会長の酒川会員が選出され、議事録署名人には「いもづる会の稗貫会員」と「FT会の竹永会員」が選出され通常総会が開催されました。通常総会では、以下の議事報告事項5件の報告、定例監査の結果報告、議事承認事項2件の審議を行いました。

1 議事報告事項

(1) 第1号議案:

分会選出幹事の交代

(2) 第2号議案:

令和6年度事業報告

(3) 第3号議案:

令和6年度収支決算報告

(4) 第4号議案:

令和6年度末財産目録

(5) 第5号議案:

令和6年度定例監査結果報告

2 定例監査の結果報告

長谷川監査役から事業計画の執行状況と令和6年度決算について以下のとおり監査結果報告がありました。

(1) 事業計画執行状況の監査結果

会則及び諸規程に従い適正に運営されていると認めます。しかし、以下の2点について更なる検討をお願いします。

①学部改組後、3年目に至っても新学科の校友会(分会)の結成がなされていません。2年後には第1期の卒業生が輩出されますので、それに間に合わせるために校友会分会設立を促すこと。

②新入会員(卒業生)がいなくなる7分会の学部校友会における今後の処遇(卒業生に対する支援等)を策定すること。

(2) 決算報告書等の監査結果

帳簿等の集計整理、財務諸表、決算報告書の内容及び作成の方法について厳正に監査を実施した結果、厳正に処理してあることを認めます。

3 議事承認事項

(1) 第6号議案:

令和7年度事業計画(案)

(2) 第7号議案:

令和7年度収支予算(案)

事務局の説明、質疑応答後採決が行われ、賛成多数で承認されました。審議終了後酒川議長は議長を退任、松宮幹事長が閉会宣言し、令和7年通常総会は、午後3時40分に閉会しました。

○懇親会の開催

午後4時30分から学部食堂棟3階において開催しました。長島副会長の開会の辞の後、松宮幹事長の司会進行で開始しました。

来賓としてソコロワ山下 聖美日本大学副学長、武居 弘市日本大学校友会副会長・経済学部校友会会長、他学部校友会会長10名、都道府県支部支部長2名、桜門会会長1名、関泰一郎生物資源科学部長、山室 裕生物資源科学部次長、飯塚 和一郎事務局長、付属小学・中学・高等学校の校長先生並びに会員71名の総勢102名の方々にご出席をいただきました。校歌斉唱、鳥海 弘学部校友会会長の挨拶、来賓のご挨拶の後、飯塚事務局長の乾杯のご発声で懇親会は始まりました。

例年どおり、学科校友会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約2時間の懇親会もあっという間に過ぎ、酒川副会長の閉会の辞で令和7年度の懇親会は終了しました。



令和6年度日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

(自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和6年度予算 (A)	令和6年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1 前年度繰越金	38,836,052	38,836,052	0	
2 会費収入	32,465,000	34,693,000	▲ 2,228,000	
1) 準会員還付金収入	32,015,000	33,790,000	▲ 1,775,000	準会員 6,758名 × 5,000円
2) 正会員補助費収入	450,000	903,000	▲ 453,000	正会員 129名 × 7,000円
3 寄附金収入	0	0	0	
4 祝金等収入	1,000,000	815,000	185,000	懇親会会費、祝い金
5 雑収入	400	23,590	▲ 23,190	預金利息等
当年度収入合計	33,465,400	35,531,590	▲ 2,066,190	
収入合計	72,301,452	74,367,642	▲ 2,066,190	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和6年度予算 (A)	令和6年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1 分会交付金	15,855,000	12,349,000	3,506,000	5分会に 7,789千円、7分会に 4,560千円を交付
2 経常費	10,710,000	9,198,577	1,511,423	
1) 人件費	5,300,000	5,148,080	151,920	事務局勤務者給与等
2) 本部分担金	340,000	340,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び委員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	1,215,787	▲ 15,787	パソコン購入、コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通信費	1,400,000	1,281,123	118,877	分会の会報発送費の一部支援、その他発送費
5) 会合費	500,000	269,073	230,927	幹事会、執行役員会、各種会合等に係る諸経費
6) 交際費	1,100,000	486,772	613,228	県支部、他学部校友会等の総会・懇親会祝金等
7) 旅費交通費	800,000	404,920	395,080	出張旅費、運営補助費
8) 支払手数料	70,000	52,822	17,178	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3 事業費	13,280,000	13,102,461	177,539	
1) 総会費	1,500,000	1,465,256	34,744	総会開催時の諸経費
2) 広報費	2,000,000	1,683,000	317,000	学部校友会会報の印刷製本代、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	20,000	0	20,000	
4) 財務委員会運営費	20,000	0	20,000	
5) 企画委員会運営費	20,000	0	20,000	
6) 広報委員会運営費	70,000	0	70,000	
7) 組織委員会運営費	50,000	0	50,000	
8) 記念事業補助費	300,000	200,000	100,000	
9) 準会員対応費	8,000,000	7,421,760	578,240	学部校友会が行う奨学金、藤校祭運営資金の一部補助等
10) 組織拡充計画費	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4県支部へ活動資金の一部補助
11) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
12) ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
13) 分会設立準備資金等	1,000,000	2,132,445	▲ 1,132,445	学科校友会のない6学科の交付金の受託支払分
4 予備費	2,000,000	0	2,000,000	
当年度支出合計	41,845,000	34,650,038	7,194,962	
次年度繰越金	30,456,452	39,717,604	▲ 9,261,152	
支出合計	72,301,452	74,367,642	▲ 2,066,190	

令和7年度日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書

(自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和7年度予算 (A)	令和6年度予算	令和6年度決算 (B)	6年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1 前年度繰越金	39,717,604	38,836,052	38,836,052	881,552	
2 会費収入	33,295,000	32,465,000	34,693,000	▲ 1,398,000	準会員会費還付金の還付割合は1人当たり 5,000円で算出
1) 準会員還付金収入	32,280,000	32,015,000	33,790,000	▲ 1,510,000	32,280千円 ÷ (5年平均納入者 6,726人 × 伸び率 96%) × 5,000円
2) 正会員補助費収入	1,015,000	450,000	903,000	112,000	1,015千円 ÷ (5年平均納入者 153人 × 伸び率 95%) × 7,000円
3 寄附金収入	0	0	0	0	
4 祝金等収入	1,000,000	1,000,000	815,000	185,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5 雑収入	10,000	400	23,590	▲ 13,590	預金利息等
当年度収入合計	34,305,000	33,465,400	35,531,590	▲ 1,226,590	
収入合計	74,022,604	72,301,452	74,367,642	▲ 345,038	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和7年度予算 (A)	令和6年度予算	令和6年度決算 (B)	6年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1 分会交付金	15,995,000	15,855,000	12,349,000	3,646,000	15,995千円 ÷ (初回納入者の5年平均 6,595人 × 伸び率 97% × 5,000円) × 1/2
2 経常費	10,710,000	10,710,000	9,198,577	1,511,423	
1) 人件費	5,300,000	5,300,000	5,148,080	151,920	事務局勤務者給与等
2) 本部分担金	340,000	340,000	340,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び委員会費
3) 事務局運営費	1,300,000	1,200,000	1,215,787	880,269	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通信費	1,400,000	1,400,000	1,281,123	118,877	分会の会報発送費の一部支援、その他発送費
5) 会合費	500,000	500,000	269,073	230,927	幹事会、執行役員会、各種会合等に係る諸経費
6) 交際費	1,000,000	1,100,000	486,772	513,228	分会、県支部、他学部校友会等の総会・懇親会祝金等
7) 旅費交通費	800,000	800,000	404,920	395,080	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支払手数料	70,000	70,000	52,822	17,178	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3 事業費	13,280,000	13,280,000	13,102,461	177,539	
1) 総会費	1,500,000	1,500,000	1,465,256	34,744	総会・懇親会開催諸経費
2) 広報費	2,000,000	2,000,000	1,683,000	317,000	学部校友会会報の製本印刷代、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	0	70,000	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	300,000	300,000	200,000	100,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	8,000,000	8,000,000	7,421,760	578,240	学部校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10) 組織拡充計画費	200,000	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4支部へ活動資金の補助
11) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
12) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
13) 分会設立準備資金等	1,000,000	1,000,000	2,132,445	▲ 1,132,445	学科校友会のない6学科の交付金の受託管理分
4 予備費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	(ホームカミングデー開催経費を含む)
当年度支出合計	41,985,000	41,845,000	34,650,038	7,334,962	
次年度繰越金	32,037,604	30,456,452	39,717,604	▲ 7,680,000	
支出合計	74,022,604	72,301,452	74,367,642	▲ 345,038	

校友だより

二刀流

大学院農学研究科 農業工学専攻
修士課程修了
昭和58年卒 工藤 謙一
中央大学 研究開発機構 教授
中央大学 研究戦略本部 シニア URA

農獣医学部農業工学科で学んだ私は、農学と工学を専門とする研究者の端くれである。今、流行りの二刀流である。

当時、農業工学科（農業工学専攻）の農業機械学分野は、東京農工大学より着任された田原虎次教授がプレハーベスト、農林水産省食品総合研究所より着任された木村進教授がポストハーベストを担当されていた。修士課程の学生は、私一人だったので、講義は一体一の気の抜けない授業であった。田原教授からは、土に関連した実験データは、バラつくのが当たり前で、全てがきれいなデータは信用出来ないとおっしゃっていた。卒業後、生体を扱う実験をしていた頃は、常にこの田原先生の言葉を思い出して、データがバラついても何度も何度も繰り返して実験を行ったものである。

木村先生には、古巣のつくばの食品総合研究所へ何度か連れて行ってもらった。実際の最先端研究をバリバリの研究者が、訳のわからぬ学生にも丁寧に説明してくれた。元、所長の木村先生の御威光に感謝である。ポテトハーベスターなどの講義をして頂いた東京農工大学の藍房和先生の講義は、

府中の農工大学や先生のご自宅での講義が多かった。農工大の院生や先生方とも知り合いになり、その後、この分野ではお世話になった。

就活では、田原先生の紹介の農業機械メーカーを不採用になり（大変申し訳なかった）、藍先生から紹介して頂いた食品メーカー（プリマハム株式会社）に採用になった。1年間工場で生産技術を叩き込まれてから、研究所に異動になり生産機械の開発に携わった。当時の機械はギアやカムのメカニズムで動作を決定していた。サイズのバラツキがある製品に対しては、100%対応は出来ていなかった。研究所3年目の時に、1年間、東京大学生産技術研究所に受託研究員として国内留学するチャンスを得た。そこで初めてメカトロニクスに出会う。メカトロニクスは機械工学（メカニクス）と電子工学（エレクトロニクス）を組み合わせた分野の技術で、センサ、アクチュエータ、制御、アンプで構成される。従来の機械工学だけでは実現できなかった、高精度の制御や複雑な動作が可能になり、大きさにバラツキのある製品を扱う食品機械には最適なシステムである。ところが、私が在籍していた頃の農業工学科の授業では、電気工学や機構学はあったが、制御工学やセンサ工学などの授業は無く、知識は乏しかった。東大の院生に教えてもらいながら勉強した。東大の指導教官から与えられたテーマは精密位置決めテーマだった。当時の東大生研は、六本木（千代

田線の乃木坂駅）にあり、振動を嫌う実験だったので、深夜地下鉄が止まってから実験を行っていた。きっちり実験をすれば、必ず同じきれいなデータが取れる。土や作物を扱う農学のバラツキのある実験とは対照的であった。幸いなことに、実験結果をまとめて、投稿した論文（圧電素子の急速変形を利用した超精密位置決め機構の開発）が学会賞を受賞した。この学会賞をきっかけに工学分野のアカデミアを目指すことになる。この原理を何かに利用出来なかと模索していたころ、出身研究室の世良田先生から応用生物科学科の佐藤嘉兵先生を紹介された。佐藤先生は快く研究室に受け入れてくれ、生命工学の研究に使用する、細胞操作用ピエゾマイクロマニピュレータを開発することになる。この装置は、ハワイ大学の柳町隆三先生らの、世界で初めてのクローンマウス作出に使用され、Natureに掲載された事により世界的に使用されるようになった。後に、人の不妊症治療にも使用された。農学と工学の知識、技術で開発した結果であり、農獣医学部農業工学科に在籍したからこそ成しえた業績であると言える。



中央大学キャンパスにて



46年間一緒に暮らしている通学にも使用したオフロードバイク ホンダXL-500S



オフロードツーリング&ソロキャンプ。オフロード4WDとオフロードバイクの二刀流

アフリカで拓植魂を 実践中!

国際地域開発学科
2008年度卒業 宮本 輝尚
国際協力機構

2025年8月20日に開幕した第9回アフリカ開発会議において、2013年から国際協力機構(JICA)の稲作専門家で、ウガンダ共和国国立作物資源研究所(NaCRRI)を拠点に「持続的なコメ振興プロジェクト」のチーフアドバイザーを務める宮本輝尚さん(2009年卒、2024年農学博士)が注目されている。2025年8月22日の神奈川新聞でも大々的に掲載されている。大学3年生だった2008年夏に倉内伸幸教授のウガンダ出張に同行し「ミスターネリカ」こと坪井達史専門家(1974年卒)の活躍に感銘を受け、卒業と同時にウガンダ稲作

栽培分野でJICA海外協力隊に2年間参加した。帰国後、大学院に進学しながらJICAの稲作専門家としてウガンダに戻り、坪井達史先輩から専門家のノウハウを徹底的にたたき込まれた。坪井達史専門家は2008年に開催された第4回アフリカ開発会議で日本政府が、「アフリカのコメ生産量を10年間で2倍にする」という公約を果たした立役者であるが、宮本輝尚さんをはじめ、同じくJICA稲作専門家の松本俊輔(2004年卒)、栗原(旧姓:長澤)一寿(2003年卒)ら拓友のサポートも大きい。ウガンダ政府は2030年までにコメの自給達成を目標に掲げており、宮本さんが率いるプロジェクトが総力を挙げて

取り組んでいる。日本大学は、ウガンダの稲作分野でJICAと大学連携協定を2015年から締結しており、1期5年を延長し10年を迎えさらに延長する予定である。この間、コロナ禍で3年間派遣できない期間もあったが、ほぼ毎年卒業生を派遣し、プロジェクトを支えている。ウガンダはもちろんのこと、アフリカの食糧を安定的に供給するために拓友の活躍は続く。



NaCRRIにて: 宮本専門家(右)と倉内先生(左)



宮本専門家(左)と倉内先生、派遣中の卒業生隊員

応用生物科学科

1994 年度卒業

百田 みのり (旧姓 鈴木)

公益財団法人高知県牧野記念財団
高知県立牧野植物園 栽培技術課

私は、在学中に植物細胞学研究室の海外研修旅行に参加、恩師の小山鐵夫元教授、内山寛教授と共に、3年生の時にはアジアで最も美しいといわれるスリランカのペラデニア植物園やハクガラ植物園、4年生の時には台湾、フィリピンのIRRI (国際稲研究所) など見学、熱帯地方の植物に魅了され、海外で働きたいと大志を抱き卒業しました。折しも就職氷河期の始まりの頃で就職もかなわず、植物細胞学研究室の研究生としてお世話になりました。その後、青年海外協力隊の植物学隊員に採用され、半年間の研修後に1997年12月より2年間、スリランカのコロンボ大学伝承医学研究所に派遣され、薬用植物の栽培の協力を行いました。

帰国後は、沖縄県の熱帯資源植物研究所に就職、2001～2003年にかけて小山元教授が園長を務める高知県立牧野植物園に出向し、トンガ王国の農業省協力のもと現地で薬として使われている植物の葉や根、果実などのサンプリングおよび植物同定のためのさく葉標本を約250種採集しました。集めたサンプルのエキス標本の作製、植物の同定を行いトンガ王国で新たに記録された植物をMAKINOA

(牧野植物園紀要) no.6 に発表しました。出向終了後は、熱帯資源植物研究所に戻り、食品製造や品質管理などに携わりました。

2010年より高知県立牧野植物園に勤務。2012年より栽培技術課に配属され、植物園に展示、研究、保存等の目的で数多く導入される生きた植物について、学名、産地等、管理に必要な情報の登録や過去に導入された膨大な数の植物のデータ更新、デジタルガイド「まきのQRガイド」の植物レコードの作成、園地に植栽される植物やイベント展示で紹介する植物の学名や科名などの情報が記載された植物解説ラベル、さらに詳しい植物の分布や生育情報、牧野富太郎博士のゆかりのエピソードなどをまとめた展示パネルの制作などを行っております。日差しの強い高知県は屋外の植物解説ラベルの劣化が激しく、ラベルの更新時には新しい知見などを追加、よりお客様に読みやすくなりやすいラベ

ルを目指しています。この他にも栽培技術課のスタッフを支える栽培総務班長として事務などのサポートをしています。

高知県立牧野植物園は、植物学者の牧野富太郎博士を顕彰する唯一の植物園で、常設展示では博士の紹介、園地では博士にゆかりのある植物を展示したり、土佐の自然を再現した生態園、伝統園芸植物など、約3000種類の植物を紹介しています。

2023年4月より牧野富太郎博士をモデルにしたNHK連続テレビ小説「らんまん」が放送されました。当園も高知ロケの撮影に協力し、放送期間中にはドラマに登場した植物を紹介、ドラマの聖地の一つとして数多くの来園者が訪れました。今年の3月からは高知出身のやなせたかし氏をモデルにしたNHK連続テレビ小説「あんぱん」も放映され、高知県は大いに盛り上がりしております。ぜひ、偉人を数多く輩出した自然豊かな高知にお越しください。



スマートフォンで利用できるデジタルガイド「まきのQRガイド」。QRコードを読み取っていただき、おすすめの植物の写真や植物図と一緒にご覧ください。



牧野植物園 土佐の植物生態園のこだわりの植物解説ラベルの数々



牧野博士にゆかりのマンネングサ属の比較展示

卸売業界の最前線

くらしの生物学科
2024年卒業 新田 健人
東京荏原青果株式会社
管理部 総務課

私は本学卒業後、東京都の中央卸売市場の一つ、大田市場にある東京荏原青果(株)に入社いたしました。入社した理由としては、大学選びの際から自分自身が食品業界に興味があり、中でもくらしの生物学科の授業で農作業を行った際に楽しさを覚え、生産者に近い立場で仕事がしたいと感じたからです。就活の際により調べていくと、卸売業という業界の魅力や良さが自分のやりたいことだと感じ入社を決めました。

あまり、この業界をご存じない方のために説明すると「卸売業」とは「生産者」と「消費者」をつなぐためのパイプのような役割になります。私は、このパイプの役割に興味をわき、特に弊社がある大田市場は青果物卸売業の取扱額で日本一という重要な役割を果たしております。

弊社では約200人の従業員が働いておりますが、社を構えているのは大田市場にある一事業所のみであるため異動は存在せず、さらにはワンフロアに、営業部、管理部、役員にわたるまでがすべて一つに収まっている為、他の部の方と関係が築きやすく、社長や

会長とも毎日コミュニケーションをとれるのが弊社の良い点だと感じます。新入社員としての一年目も同期がおらず不安な中、先輩や上司の方の温かい環境づくりのおかげで今では何一つ不満なく仕事に取り組めております。

管理部 総務課での業務内容としては、事務作業は勿論のこと、社有車の管理、役員会に使う資料の作成、自社ビルの管理・運営、6月には総会の準備や年末年始には現場の大掃除、初市に向けての会場設営など多岐にわたって行っており、毎日のように同じことをやるというより、日々、臨機応変に様々なことに取り組んでおります。珍しいものでいうと、今年の5月に開催された日本三大祭りの一つに数えられる「神田祭」にも業務の一環として参加させていただきました。地域ごとにお神輿を出しているのですが、大田市場は異例で青果業界として一つのお神輿を出しており弊社もそのうちの一社に属しているため参加しております。今回は5年ぶりということもあり町は人で賑わい大きな祭りに参加できたのが誇りに思います。特殊な業界ではありますが地元根付いてきたからこそ、このようなイベントにも参加できるというのは貴重な経験に他ならないと思います。

また、セリが始まるのが午前7時からということもあり、早朝からの仕事ではありますが毎朝エネルギーに働いている社員や市場の方を見ると朝の眠気が飛ぶような元気を貰えます。トラックやフォークリフトが縦横無尽に行き交っている為、少し危険な場所ではありますが、それだけの物流を動かしていると考えれば納得のいく環境にも思えます。

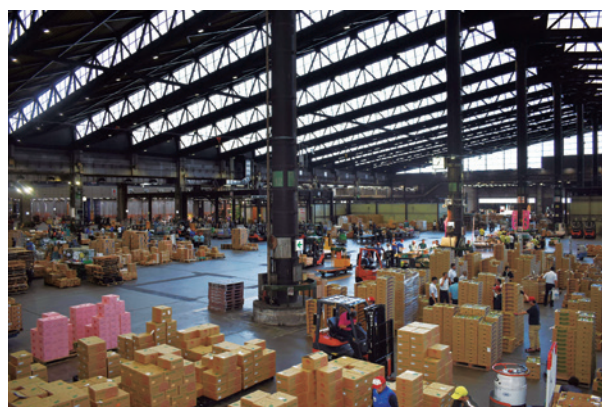
最近では職場の環境に慣れ、少しずつ自分に任される仕事が多くなってきたことにより責任感を感じることも多くなってきました。しかしそれは、これからの自分の成長につながると同時に弊社の未来、ひいては青果業界の未来につながる仕事になっていくと考えています。日本の食文化の最前線として、大田市場という日本有数の市場にて働けることへの感謝やありがたみを感じつつ、青果業界の更なる発展の一端を担えるよう精進していきたいです。



卒業パーティーにて(左端が筆者)



市場でのセリの様子



大田市場内の様子

富 嶽 会

生命農学科

連絡先：応用昆虫科学研究室
0466-84-3520 事務局長 畠山吉則
E-mail: hatakeyama.yoshinori@nihon-u.ac.jp

令和7年度 富嶽会総会の開催

昨年度に引き続き、対面形式での総会が本年5月17日(土)13時より1号館121講義室にて開催されました。長島会長の挨拶から始まり、令和6年度事業報告、決算報告、監査報告ならびに令和7年度の事業計画および予算案が承認されました。総会終了後には長島武志会長(29期)による「学科・学部の発展に寄与する校友会」および市川靖副会長(37期)による「米をめぐる課題と歴史」の講演が実施され、盛会裡に終わることができました。続いて懇親会が開かれ、



令和6年度 総会

会員および準会員、学科教員らで親睦を深めました。

活動経過報告

本年3月25日に生命農学科123名の卒業生に対して富嶽会から生花の飾り付けと記念品として袱紗が贈呈



卒業式での生花の飾り

され、新たに富嶽会正会員(令和6年度卒78期)の仲間入りをしました。また、3年次および4年次学生を対象として、富嶽会正会員である学科卒業生を招いた就職活動支援行事を実施しました。

生命農学科の近況

本年4月に畠山吉則先生が教授、奈島賢児先生が准教授、東未来先生が専任講師にそれぞれ昇格されました。代表して東未来専任講師(65期)の主な研究テーマと、メッセージをご紹介します。主な研究テーマは「花の老化や花模様の形成など、花の形質に関わる遺伝子の機能解明」でして、「美しい花を咲かせ、その花をより長く楽しめるよう、研究を進めています。生物資源科学部は現在、新たな組織体制へと進化を遂げつつあります。生命農学科は、作物学や園芸学、遺伝育種学、植物病理学など、農学の基礎と応用を幅広く学ぶ学科でしたが、今後も新体制のもとで学生とともに学びを深め、卒業生のさらなる活躍を楽しみにしています。」とのことでした。



東 未来 専任講師

令和6年秋の叙勲において、勝野武彦名誉教授が長年にわたる教育研究への功勞に対し、瑞宝小綬章を受章されました。勝野先生から会員へのお言葉を頂きましたのでご紹介します。「一日本大学生物資源科学部の卒業生で、かつ、旧生物資源科学部農学科、植物資源科学部の教員としてお世話になった校友として一 私、



瑞宝小綬章受章 勝野武彦名誉教授

昨年の秋の叙勲に際し、永年(43年; 1972-2014)の教育研究活動に関し教育研究分野での表彰を受け、瑞宝小綬章を頂く栄誉に浴することができました。昭和46年から長い間教育研究に携わり多くの校友の皆さんの力もあり、無事に教育研究を進めることができました。今回の受章も皆さんとの強い絆によるものと嬉しく思っております。専門分野は造園緑地、庭園植物・植物生態の分野で研究室では異質でしたが、農学科、植物資源科学科卒業生の皆さんと共に研究・教育に携われたことは特段の喜びとするところです。校友の皆さんのご健康とご多幸を祈ってご報告に替えさせていただきます。」とのことでした。心よりお祝い申し上げます。

富嶽会事務局より

今年度の富嶽会事務局は昨年度と同様に、事務局長は畠山吉則教授、庶務理事は窪田聡教授、庶務は東未来専任講師が担当します。今後ともよろしくお願い申し上げます。

富嶽会のホームページ(<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~fugakukai/>)にて令和7年度富嶽会総会の資料を掲載いたしましたので、どうぞご覧ください。(井村喜之)

紫 友 会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

紫友会創設70周年

令和6年11月30日(土)日本大学生物資源科学部本館大講堂において紫友会創設70周年記念行事が執り行われました。午前に令和6年度第2回理事会および通常総会を開催しました。午後から記念式典を開催しました。関泰一郎学部長にご挨拶いただいた後、基調講演として「学問の系譜：農芸化学と紫友会70年のあゆみ」と題して長谷川功先生にご講演いただきました。さらに記念講演として寺本祐之氏に「食品の機能性研究と食品産業への応用」、早田悟氏に「グローバルな視点からみた医薬品開発 一六会からも世界へ」のご講演をいただきました。本館ガレリア食堂において交流会を開催しました。卒業3年目から60年目程度まで幅広い年齢層の皆様にお集まりいただきました。10年ぶりの開催でしたが100名以上の校友の皆様にお集まりいただき盛会裏に終えることができました。

令和7年度 第1回理事会開催

令和7年度理事会が本年7月26日(土)14時より本館3階33講義室で開催されました。高橋会長の挨拶から始まり、平成6年度事業・決算報告が事務局よりなされ、承認されまし

た。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。次に令和7年度事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。また、理事の皆様同席のもと令和7年度第32回紫友会奨学生(生命化学科最後の4年次学生となります)の授与式が開催され奨学生に奨学金が授与されました。今後の紫友会の体制や活動について理事の皆様から様々なご意見を頂きました。

令和7年度 第32回紫友回奨学生決定

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下3名を決定しました。

4年次；鳥海 兼続、小森 亜美、一松 優衣



紫友会奨学生表彰

生命化学科の近況

【在校生】

令和6年11月9日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。熱戦の結果、生物有

機化学研究室が優勝しました。表彰式には紫友会役員の皆様にもご同席いただきました。卒業式は令和7年3月25日に日本武道館および学部大講堂にて令和6年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生122名が社会へ羽ばたきました。現在、当学科には計142名(男子91名、女子51名)の学生が在籍しております。



紫友会杯争奪ソフトボール大会優勝
生物有機化学研究室

【学科教員動向】

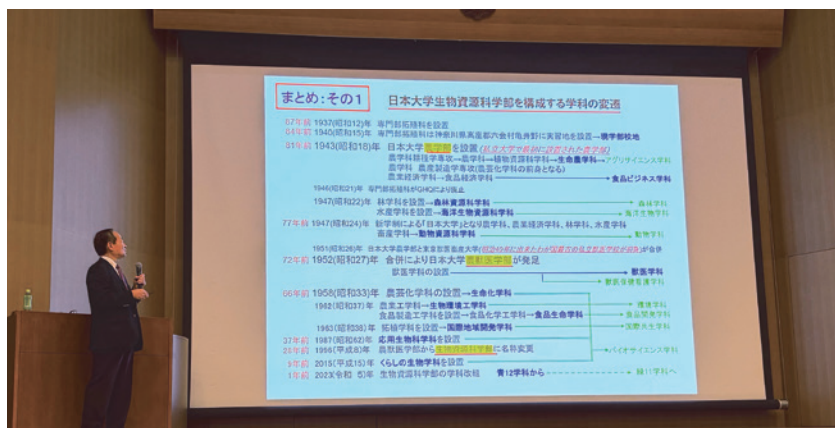
令和7年3月31日付けにて熊谷日登美先生(食品化学研究室)が定年退職されました。熊谷先生の長年にわたる献身的な学生教育研究指導に対し感謝申し上げます。これにより、学科全体では教員13名(教授5名、准教授6名、専任講師1名、助教1名)、特任教授2名、合計15名の布陣で教育研究活動にあたっております。

紫友会事務局より

【事務局からのお知らせ】

令和7年度生命化学科4年次学生の皆さんの卒業をもって実質的な生命化学科の教育研究活動を閉じることになります。これに伴って生命化学科校友会である紫友会の活動も収束して参ります。現在紫友会の校友会活動の存続について検討を進めております。学部校友会や新学科の皆様とも議論を深め進めて参りますのでお待ちいただけますようお願いいたします。

(荻原 淳)



紫友会創設70周年記念式典 基調講演

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医化学研究室
0466-84-3634 事務局長 岡林 堅
E-mail: okabayashi.ken@nihon-u.ac.jp

令和7年度 角笛会総会・ 日本大学獣医学会 合同大会の開催

令和7年7月5日(土)、日本大学生物資源科学部1号館121講義室において、令和7年度角笛会総会および第60回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会は渋谷久学会会長のもと、13題の一般公演と獣医学科の教員3名(日向綾子先生、越後谷裕介先生、鎌田寛先生)による教育講演が行われました。

角笛会総会では鳥海弘会長(昭和50年卒)から挨拶があり、総会是小熊圭祐議長の進行で審議が行われ、令和6年度事業活動および会計収支報告、令和7年度事業計画および予算案等が審議されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、藤田実氏(神奈川県)、北澤浩一氏(神奈川県)、新堀精一氏(栃木県)、西川眞氏(新潟県)の4名に賞状と記念品が授与されました。

令和7年度 角笛会主催 獣医療系企業就職説明会の開催

令和7年7月5日(土)(令和7年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会と同日)、生物資源科学部校友会準会員(学生)のための獣医療系企業就職説明会が開催されました。コロナ禍などによる中断を経て6年ぶ

りの開催となりました。趣旨・目的に賛同し参加した動物病院や地方自治体等26団体による個別相談ブースが用意され、学生約100名(延べ人数)が参加しました。今回は獣医学科学生だけでなく、新設から3年目の獣医保健看護学科の学生も多く来場しました。就職活動だけでなく低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、企業・団体、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。



就職説明会の様子(宮崎県)



就職説明会の様子(JPR)

第20回 日本大学医療系 同窓・校友学術講演会

第20回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部同窓会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会が開催されました。本講演会は角笛会が担当し、令和6年10月5日(土)13時30分より、日本大学会館(市ヶ谷)大講堂にて、「次世代を担う活躍する同窓生」というテーマで実施されました。今村和彦先生(昭和60年卒)に座長として本会を進行頂き、藏内勇夫先生(昭和54年卒/世界獣医師会次



藏内先生講演

期会長)が「ワンヘルスで地球の健康を守り、持続可能な世界を築く」と題してご講演頂きました。講演後に開催する総合討論では自由な情報交換が行われました。講演会後の懇親会は、学部を超えた懇親の輪が広がっておりました。

獣医学科の近況

【獣医師国家試験】

第76回獣医師国家試験が令和7年2月12日、2月13日にTOC有明(東京会場)にて行われました。日本大学獣医学科から126名が受験し、96名が合格しました。合格率は76.2%(全国平均71.9%)でした。

【卒業生および新入生】

本年3月25日に132名(男子58名、女子74名)が本学科を卒業しました。また、本年4月には128名(男子51名、女子77名)の新入生を迎え、令和7年5月27日に食堂棟3階にて新入生歓迎会が行われました。

【学科人事】

本年3月をもって遠矢幸伸教授(獣医微生物学研究室)が退職されました。本年4月に遠矢幸伸教授特任教授(獣医微生物学研究室)、日向綾子専任講師(獣医食品衛生学研究室)が採用されました。また、大野真美子専任講師(獣医産業動物臨床学研究室)が准教授に昇格されました。

(木庭 獵達)



就職説明会の様子(動物病院)

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：ミルク科学研究室

0466-84-3658 事務局長 川井 泰

E-mail: kawai.yasushi@nihon-u.ac.jp

活動報告

令和7年3月に119名(女子64名、男子55名)が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員第78期生として仲間入りをしました。卒業生全員に満喜葉会から記念品(オリジナル印鑑付ボールペン)を贈りました。卒業生の成績優秀者には満喜葉会会長賞を授与、奨金を贈呈しました。また卒業アルバムの制作にあたってはその費用を一部補助しました。新4年生の成績優秀者2名に満喜葉会会長賞を授与、奨金を贈呈しました。

5月から6月にかけて、在校生へ向けて正会員を講師に迎え特別授業が行われました。動物資源科学科4年生へは小林淳二会員(昭和54年卒：日本食肉格付協会)が「企業と業務」、またアグリサイエンス学科1年生へは植村光一郎会員(昭和53年卒：ミートコンパニオン)が「ブランド創生フィールドワーク」、同2年生へは中谷政義会員(昭和54年卒：元JICA職員)が「国際協力と農業」についてそれぞれ講演しました。



小林淳二会員



植村光一郎会員



中谷政義会員

学科の状況

動物資源科学科責任者(旧・学科主任)
川井 泰

令和5年4月に始まった学部改組も3年目となり、動物資源科学科は制度的には最後の学年・4年生を迎えることとなりました。また、昨年度は新学科

と現行学科間のカリキュラム進行で各種の考慮を必要としましたが、教職員、学生間の協力で大きな問題も無く、終了するに至りました。本年度は必修科目、選択科目を問わず多くの科目が閉講になっておりますが、必要に応じて開講も出来る状況に変わりはありません。また、学科を跨いだ科目振替も行われており、講義内容がどの科目にも無い場合も含めて最後まで開講する必要がありますが、現在の対応状況に問題はございません。

今年度の動物資源科学科の状況は以下の通りです。在籍者は7月1日現在にて1,2年生はおらず、学年合計152名(男性70名、女性82名)で、定員(136名)の充足率は111.8%となっています。教員の状況ですが、令和7年3月に学科の発展にご尽力いただきました小泉聖一特任教授(畜産マーケティング)、長嶺慶隆特任教授(動物育種学)が定年によりご退職されました。また、令和7年4月に相澤修専任講師が准教授に昇格されました。令和7年度の動物資源科学科の研究室と教員構成は、動物生殖学(三角浩司准教授)、飼養学(浅野早苗専任講師)、草地学(佐伯真魚教授)、動物組織機能学(山室裕教授、相澤修准教授、園田豊専任講師)、ミルク科学(川井泰教授)、野生動物学(岩佐真宏教授、明主光助教)、伴侶動物学(福澤めぐみ准教授)、学科教授室(細谷忠嗣教授)、学科事務(織田由紀子実習助手、吉川知美実習助手)となっています。

就職状況では、令和6年度の就職希望者に対する就職率が99.0%で、令和3年度に次いで高い就職率となりました(令和5年度98.1%、令和4年度93.6%、令和3年度99.1%、令和2年度97.1%、令和元年度98.5%)。内訳の産業分類別ではメーカーが最多となる27.9%(1/3に迫る比率)、次いで官公庁・団体が24.1%、サービス業(調査・コンサルタント等)が19.2%と3分類合計で70%を超えとなり、続いて商社8.7%、流通6.7%、医療・福祉施設5.8%の順でした。また、官公庁・団体の就職は、人数順で農林水産省、県庁・市役所、

全国酪農業協同組合連合会、東京食肉市場、日本食肉格付協会、財務省、県警で、進学(含む専門学校)は11名(昨年より8名増)となっています。なお、昨年は官公庁・団体とメーカー(食品)が同率の13.9%、一昨年はサービス業(調査・コンサルタント等)が16.2%で最多でしたが、官公庁・団体への就職が躍進し、大きな順位の変動が認められています。

学生には引き続き事故無く、心身共に健康かつ安全に、卒業研究に励んでいただきたいと思います。今後とも変わらぬ暖かいご指導とご支援を賜りますよう、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

ICMJで大健闘!

2月に第17回全日本大学対抗ミートジャッジング競技会(ICMJ)が開催され、全国の13大学から計46名の学生が競技に参加しました。本学からは3名が参加し、動物資源科学科4年生の本多遥香さんが個人総合部門で優勝、同じく井原賢征さんが5位に入賞しました。部分肉・精肉部門では、1位に土井実乃梨さん(アグリサイエンス学科3年生)、2位に本多さん、3位に井原さんと上位を独占しました。そして大学対抗部門でも本学は3位となり大健闘しました。また本多さんと井原さんは、オーストラリアで開催される世界大会への出場が決まっています。

(西野 松之)



ICMJチーム日大

後：森田コーチ(元食品加工実習所、昭58年卒)

井原さん 本多さん

前：浅野先生 土井さん(アグリサイエンス学科3年)

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務室
0466-84-3420 事務局長 佐藤 奨平
E-mail: imozurukai@gmail.com

学科近況報告

新型コロナによる影響が収束し、学部運営が基本的には平常どおりとなりました。授業も全面的に対面形式となり、新入生のスポーツフェスタも開催されました。食品ビジネス学科の最大の特徴であるフィールドリサーチ(旧経済調査実習)が、前年度に引き続き通常の宿泊形式で実施できたほか、教員の海外での現地調査・学会発表や海外フードシステム現地研修(台湾)も実施されました。夏のオープンキャンパスでは、会社展示ブース(卒業生8社)にご協力いただき大いに盛り上がりしました。目玉科目である食品ビジネス特別講義は、フードビジネスに変革を起こす能力を身に付ける目的で「食で人を幸せにする DtoC ビジネスを創造する」をテーマに実施し、その模様が『日本食糧新聞』(「日本大学食品ビジネス学科、特別講義でアントレプレナーシップを育む」2024年12月18日・12869号・4面)にて取り上げられました。例年食品ビジネス学科には将来の経営を担う後継者となる学生が入学していますが、記事は各地の食品ビジネスの経営者や後継者の目に留まったようです。

また、食品ビジネス学科FD委員会の学生たちが主体的に企画する卒業パーティーも、5年ぶりにヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて盛大に開催されました。さらに卒業式では、青木泰祐会長より祝辞を頂戴しました。

学科校友会としても通常どおりの運営となり、役員会・諸会議も対面とオンラインを併用して遠方の西日本やオーストラリア



フードッグ

とも結んで実施してきました。役員・教職員情報交換会では、準会員である在学生の支援を引き続き強化することなどが話し合われました。オンラインの積極的な活用と民主的な運営につとめました。

幹事会・懇親会の開催

2025年6月7日(土)に開催した幹事会では、幅広い年代の卒業生や役員だけではなく、学科からも多くの教員が参加しました。長らく学生のための学科校友会をスローガンに掲げてきた当会の役割を再認識するとともに、学生の研究・教育・就職活動に対する支援を強化していくことが審議・承認されました。

懇親会は5年ぶりに学食オリビア(本館ガレリア階)にて開催されました。久しぶりの立食パーティーとなり、各世代の卒業生はもちろんのこと、コロナ禍で卒業パーティーができなかった世代の若い卒業生の参加も目立ちました。今回は、コロナ禍の間にご退職された木島実先生にスピーチをいただくとともに、卒業生から花束が贈呈されました。木島先生には引き続き、学科校友会の常任幹事長として産学ネットワーク構築の推進にご尽力いただきます。

校友紹介コーナーでは、環境省地球環境局主査の東海林帆氏(2005年卒・59期/食品商社勤務後2010年生物資源経済学専攻博士前期課程修了)からデコ活(二酸化炭素(CO₂)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を含む"デコ"と活動・生活を組み合わせた新しい言葉)のPRが行われました。そこで終わらないのが食ビの校友会です。続けて会場内にマイクが回っていき、参加者全員が近況や大学の思い出についてスピーチをしていただきました。卒業生と教員とが一堂に会して「同窓会」として懇親を深めることができたと思います。

なお、事務局長は高橋巖先生から佐藤へ交代するとともに、新たに着任された菊地香先生と齋藤文信先生にも参画いただくこととなり、懇親会でも挨拶をさせていただきました。新事務局体制は次のとおりです。

- ・事務局長(総務・庶務担当)
佐藤奨平准教授
- ・事務局参与(事務局助言等)
高橋 巖教授
- ・事務局員(一般会計担当)
齋藤文信准教授
- ・事務局員(特別会計担当)
菊地 香准教授



若い卒業生の参加も目立った

食品ビジネス界を中心に活躍する1万人超の学科卒業生に見守られながら、18年後の学科100周年に向け、学科・本会ともに鋭意努力していく所存です。

食品ビジネス学科の近況

【卒業生・在校生】

2024年度に135名(第79期)が卒業し(正会員総数10,744名)、本会からは学業優秀者表彰(1名)、留学支援(1名)、サポートチューデント(3名)、簿記2級合格(1名)に対して食品ビジネス特別奨学賞を授与しました。2025年度新入生は172名を迎えました(1年次172名、2年次155名、3年次159名、4年次149名、合計635名)。新カリキュラム3年目として動いておりますが、教員は旧カリ&新カリの両方の科目をこなしています。

【教職員の動き】

2025年4月に高崎健康福祉大学農学部より齋藤文信准教授(食品マーケティング研究室)が着任されました。7月には学科事務室に五十嵐洋子さん(バイオサイエンス学科事務室より)が着任されました。8月には谷米温子准教授(フードコーディネート研究室)が派遣先のフランスより帰国されました。食品ビジネス学科の研究教育のパワーアップが図られています!

情報発信は、Eメール・FB等で行っております。登録をお願いいたします。

(1) 食品ビジネス学科

校友会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>

「いもづる会」で検索

(2) Facebook(いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/>
Facebookで友達申請をしてください。

(佐藤 奨平)



POWER×ASSISTの日大食ビ校友会

あすなろ会

森林学科

連絡先：森林環境保全学研究室
0466-84-3675 小坂 泉
E-mail: asunaronichidai@gmail.com

あすなろ会活動報告

【総会】

令和6年度あすなろ会役員会を令和6年9月28日、本学部10号館にて開催しました。令和5年度事業報告、決算報告、監査報告並びに次年度の事業計画案及び予算案について審議され、承認されました。

令和5年度は、あすなろ会から学科・学生に対し、新入生への入学記念品授与、実習の補助学生への補助、第2回オープンキャンパスでの協力学生への昼食補助、卒業式でのあすなろ会長賞授与および卒業記念品授与、学会発表に挑戦する学生への参加費や旅費等補助の支援をして頂きました。学会発表では、18名の学生・院生が日本森林学会、日本生態学会、日本木材学会、樹木医学会、日本哺乳類学会、関東森林学会で研究発表しました。この他、新たな支援として樹木医資格取得を目指す大学院生への研修費の一部を補助する制度を開始しました。また、2月に能登半島地震における会員の被害状況の確認を行いました。

学科の近況

【卒業生・新入生】

令和7年3月25日には、112名(男子86名、女子26名)が森林資源科学部を卒業しました。研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生への「あすなろ会会長賞」を例年通り授与し、9名に表彰状と記念品が贈られました。

令和7年4月に森林学科として103名(男子76名、女子27名)を迎えました。あすなろ会からご支援を頂き、新入生に入学記念品を贈りました。1年生の前期必修の森林基礎実習では、少人数のグループに分けて、

教員がテーマ別に実習を行います。藤沢演習林でキノコの観察やチェーンソー演習をするほか、箱根や多摩森林科学園に行くフィールド実習、実験室での実験等を行います。また、4月には1年生全員で秦野市の弘法山ハイキングコース(約7.5km)で新緑の森林を歩き、樹木観察をしました。

5月にはNUBSフェスタ(新入生の学科対抗運動会)が開催されました。森林学科は種目別で「学科対抗多種目タイムアタック!」「学科対抗十字綱引き」で1位、「学科対抗ブラインドスクエア」で2位となり、結果、総合第3位となりました。団体競技での団結力が光りました。



NUBSフェスタでの大縄跳びの様子

学科では学生・大学院生向けに様々な就職支援を行っています。林野庁や都道府県(林業職)を目指す学生には、学科主催の公務員講座を行っています。令和6年度公務員採用試験(林野庁や都道府県庁等)には、学生・院生合わせて31名が合格しました。

3年生には、学科主催の就職支援イベント「卒業生による就職情報交換会(10月)」を実施しました。造園・コンサル、建築・住宅、公務員、メーカー等の様々な業種で活躍されている19名の卒業生にご参加頂きました。参加した学生は卒業生と活発に情報交換をしました。近年、企業の採用活動の早期化の傾向があり、3年生は夏頃からインターンシップ等に参加し就活を本格化させます。

民間企業への就職を目指す学生も含め、引き続き学科で支援して参ります。

【学科の人事】

令和7年3月、バイオマス資源化学研究室の木口実先生が退職されました。平成30年に日大に教授として赴任されてから7年間、教育・研究活動を通じて多くの学生や大学院生を指導して頂きました。また、学部執行部を務め、学部・学科の運営に大きく貢献されました。木口先生には令和7年4月以降も引き続き特任教授として学科の教育にご協力いただいています。

【学科の体制と教員配置】

令和5年度より森林学科は3つの分野と6つのテーマから構成されています。

森林エコシステム分野 生態(安部哲人教授・上村真由子准教授)、微生物(太田祐子教授・松倉君予助教)
森林サービス分野 森林環境(瀧澤英紀教授・小坂泉准教授)、共生(吉村充則教授・杉浦克明教授・園原和夏准教授)

森林バイオマス分野 バイオマス(毛利嘉一専任講師・木口実特任教授)、エコマテリアル(堀江亨教授・倉田洋平専任講師)

あすなろ会ホームページ

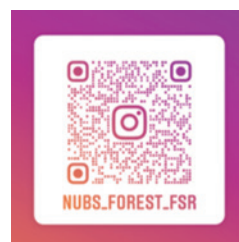
下記アドレス等にて、あすなろ会や学科の近況をご覧になれます。

あすなろ会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

学科ホームページ

<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~forestry/>



InstagramのQRコード

(園原 和夏)

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋環境学研究室
0466-84-3686 事務局長 荒 功一
E-mail: ara.koichi@nihon-u.ac.jp

令和7年度桜水会総会と 松宮先生の記念講演会の開催報告

令和7年8月2日(土)、第2回オープンキャンパス終了後に、10号館第4講義室において令和7年度桜水会総会が開催されました。総会では、令和6年度の事業報告・決算報告・監査報告が行われ、さらに令和7年度の事業計画案および予算案について審議がなされました。いずれの議案も承認され、今後の桜水会の活動方針が確認されました。

また、総会に先立ち、同会場にて桜水会主催による松宮政弘先生のご退職記念講演会が開催されました。講演タイトルは「海洋生物に魅せられて ～海洋生物の酵素研究の半世紀～」であり、松宮先生のご家族もご臨席くださいました。当日は多くの学生や教員が参加し、先生が長年にわたり積み重ねてこられた教育・研究活動の歩みが紹介され、改めてそのご功績への深い感謝の意が表されました。

学科・準会員への支援

本年度前期の授業は、4月11日から7月31日までの期間に開講されました。前期の必修科目である「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目)では、将来就きたい職業を見つけるための職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生による体験談の講演が行わ



海洋基礎実習Ⅰの一コマ。澄みわたる青空の下、爽やかな風を受けながら元気に出航です。

れました。7月18日には木下淳司氏(42期：神奈川県環境農政局農水産部水産課)に「生命のゆりかご”藻場”の消失と再生に向けた取り組み」、7月26日には森笹瑞季氏(67期：株式会社ちとせ研究所)に「博士号を取得して民間企業へ就職するキャリアについて」というタイトルでご講演いただきました。

上記のほか、1年次の学科オリエンテーションとして地引網実習や必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」の熱中症対策などの支援を行いました。本年度は、下田臨海実験所で乗船実習や磯採集、磯釣り・釣果物の観察などを実施し、また1年次用の学科Tシャツの作製と配布も完了しています。今後は、在学生の学会参加費の補助や卒論コンペ(塚本賞)の支援、卒業生への記念品の贈呈などを予定しています。

学科の近況

【新入生・在学生】

本年4月に海洋生物学科として153名(男子105名、女子48名)の新入生を迎え、新旧学科を合わせて現在615名(男子432名、女子183名)の学部生が在籍しています。また、大学院には、4専攻にわたり、博士前期課程に28名(男子19名、女子9名)、博士後期

課程に6名(男子3名、女子3名)が在籍しています。

【学科教職員】

令和6年度をもちまして、本学科の教育研究活動を15年にわたり担っていた小糸智子専任講師と、5年間にわたり学科を支えてくださった濱田奈々実習助手がご退職されました。小糸先生は、専門分野での研究や教育を通じて多くの学生を導かれ、学科の発展に大きく寄与してくださいました。濱田さんは、学科運営において細やかな配慮と誠実な姿勢で日々の業務を支えてくださり、学生・教員双方にとって大きな力となってくださいました。お二人の長年にわたるご貢献と温かな人柄に、教員・学生一同、心より深く感謝申し上げますとともに、今後のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

令和7年度において新規の教職員採用はありませんでしたが、現在は専任教員15名、特任教授1名の体制で学科を運営しています。学科事務室については、これまでどおり新旧学科の共通体制で運営されており、宮治久美実習助手が当学科に復帰され、河野直子実習助手とともに2名体制で業務にあたっています。お二人のきめ細かなサポートにより、学生対応や事務処理が一層円滑に進められており、学科全体の活動を大きく支えていただいています。

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会の活動などについて、事務局までぜひお知らせください。桜水会のホームページは、リニューアルされた海洋生物学科HP(http://www.msr-nihon-university.org/osui_news/)内に併設されていますので、ぜひご利用ください。同HPでは、毎年の桜水会報を掲載しているほか、連絡先の変更手続きも可能です。桜水会は、2021年3月より会報を完全オンライン化し、連絡方法を従来のハガキ送付からメール送付に移行しました。メールアドレスの登録や変更は、桜水会HPでお願いいたします。

(福島 英登)



NUBSフェスタ終了後、学科旗を掲げて、みんなで「お疲れ様!」の一枚です。

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：生物生産システム工学研究室
0466-84-3691 梅田 大樹
E-mail: umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

会員動向

正会員数は、令和6年度卒業生104名を加え、令和7年3月現在で8401名となりました。現役学生である準会員数は、3年生10名、4年生104名で、合計114名となっています。

令和6年度 総会・交流会の開催

令和6年度の工学会総会は令和6年11月9日(土)13時より1号館121講義室にて開催しました。上程議案の一般経過報告、決算・監査報告、の他次年度の事業計画案、予算案について審議の結果、原案どおり承認されました。その後、場所を食堂棟3階に移し交流会を開催しました。

学科への支援活動

令和6年11月9日(土)に112講義室、113講義室、学生ホールを使用して、学科学生対象の就職支援セミナー(後援：工学会)を開催しました。参加の団体・企業の条件としては、1名以上の本学科卒業生が在職し、かつ当日に説明者として参加することにしており、学生が質問しやすい環境を作っています。また、学科主催ではありますが、工学会からは卒業生の団体・企業の紹介、飲料等の提供など後援を行っています。今年度のセミナーでは、ご参加いただいた公共団体(公務



就職支援セミナーの一コマ

員)は14団体、民間企業は15社を数え、当日は企業や団体組織の説明だけでなく、就職活動時期に気を付けることなど身近な相談まで活発に行われていました。今年度末には生物環境工学科の学生の大半が卒業することになりますが、今後は何らかの形で皆様の交流の場を作るとともに、卒業生に対して可能な限りの支援を行っていきたいと考えています。

準会員への支援活動

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援活動を行っており、令和6年度の卒業生には卒業記念品(印鑑付きボールペン)の贈呈、及び卒業生表彰(工学会長賞)を行いました。工学会長賞は伊藤永裕さん、陳威さん、佐々木乃亜さんの3名となり、学位記伝達式にて受賞者の公表が行われました。



学位記伝達式の一コマ

学科教員人事

令和7年度の生物環境工学科は、以下の体制(教授5名、准教授6名、専任講師2名、助教1名、特任教授1名)で教育研究活動を行っています。専任教員氏名の後にあるカッコ内は学部改組後の新しい所属学科名になります。

水資源環境工学

長坂貞郎 教授(環境)、
山寄高洋 専任講師(環境)

地域環境保全学

笹田勝寛 准教授(環境)、
對馬孝治 准教授(環境)

地球環境・資源リモートセンシング

串田圭司 教授(環境)、
宮坂加理 助教(環境)

動物生態環境学

三谷奈保 准教授(動物)

建築・地域共生デザイン研究室

栗原伸治 教授(国際共生)、
藤沢直樹 専任講師(環境)

環境土木施設工学

齊藤丈士 教授(環境)

生物生産システム工学

川越義則 准教授(アグリサイエンス)、
梅田大樹 准教授(アグリサイエンス)、
宮本眞吾 特任教授

生物生産流通施設学

都甲洙 教授(食品開発)

バイオメカトロニクス

内ヶ崎万蔵 准教授(環境)

今年3月末日をもって、川本治特任教授、佐瀬勘紀特任教授が5年間の任期を満了されました。今後ますますのご活躍を祈念いたします。

事務局より

昨年度校友会報でもお知らせしましたが、学科改組により生物環境工学科の在学生が全て卒業するまでの期間、工学会は存続しますが、それ以降は新学科に承継されず、校友会の会則により分会の資格を失い「準分会」となる可能性が高い情勢にあります。工学会は卒業生の組織であることから、駅伝のように新学科にタスキをつないで分会として存続していくことが望ましいことではありますが、準分会となった場合でも、これまでと同様の親睦活動が行えるよう、学部校友会および学部当局に対して要望してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

会員の皆様には今後もホームページでの情報発信に努めてまいりますので、お時間のある際には是非ご覧ください。また、下記E-mailアドレスにメールいただければ定期的な情報も配信いたしますので、ご活用ください。

工学会ホームページ

<https://bae-kougakukai.org>

お問い合わせページ

<https://bae-kougakukai.org/contact/>

E-mail: info@bae-kougakukai.org

(工学会公式)

FAX: 0466-84-3836

(地域環境保全学研究室 笹田直通)
(梅田 大樹)

F T 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室
0466-84-3980 成澤 直規
E-mail: narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会について、本年度は4月12日(土)に本学湘南キャンパスにて開催されました。これにより令和7年度事業計画案および会計収支予算等に関して承認されました。また、FT会総会は6月7日(土)に開催されております。なお、一昨年度より学部改組に伴い新設された食品開発学科の入学者をFT会準会員としております。

【準会員(在学生)への活動】

FT会では準会員の活動援助として、4年生へ卒業記念品の贈呈を行いました。4年生の学業優秀者に贈られるFT会長賞には村本優月さん(食品資源利用学研究室)が選出され、千野誠FT会会長より贈られました。全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。1年生の学部スポーツフェスタ(NUBSフェスタ)に対して、Tシャツ作製の補助を行いました。成績は総合優勝となり、大いに盛り上がりました。



FT会長賞 村本優月さん
(2025年3月25日 卒業式にて)

【名誉会長の選出について】

令和7年度FT会総会において、関村具由氏が名誉会長に選出されました。関村氏は平成7年から令和5年までFT会会長を務め、会の発展にご尽力いただきました。



関村具由氏の名誉会長に選出について
(2025年6月7日 FT会総会にて)

学科の近況

【在学生と卒業生】

令和6年度はFT会60期生132名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和7年度 食品開発学科新入生151名を迎え、準会員数は604名となっています。

【学科人事】

熊谷日登美先生(旧生命化学科)、長田和実先生(旧食品生命学科)が定年退職となりました。令和7年度4月より成澤直規先生(食品資源利用学研究室)が教授に、山口勇将先生(食品化学研究室)が准教授に昇格されました。

令和6年度 食品開発学科は以下の構成となっております。

○12号館5階

食品微生物学研究室

(鈴木 ちせ 教授、河原井 武人 専任講師、京井 大輔 専任講師) (旧食品生命学科)

食品加工学研究室

(阿部 申 准教授) (旧食品生命学科)

食品素材科学研究室

(鳥居 恭好 准教授) (旧食品生命学科)

食品化学工学研究室

(陶 慧 准教授) (旧食品生命学科)

食品生命学科特任教授室

(荻原 博和 特任教授)

○12号館6階

食品資源利用学研究室

(竹永 章生 特任教授、成澤 直規 教授) (旧食品生命学科)

食品生命機能学研究室

(細野 朗 教授、津田 真人 准教授) (旧食品生命学科)

食品栄養学研究室

(長田 和実 特任教授、大畑 素子 准教授) (旧食品生命学科)

食品分析学研究室

(松藤 寛 教授、大槻 崇 准教授) (旧食品生命学科)

○12号館3階

食品化学研究室

(熊谷 日登美 特任教授、山口 勇将 准教授) (旧生命化学科)

○12号館3階

食と健康研究室

(山下 正道 准教授) (旧くらしの生物学科)

○6号館4階

ミルク科学研究室

(川井 泰 教授) (旧動物資源科学科)

○7号館3階

生物生産流通施設学研究室

(都 甲洙 教授) (旧生物環境工学科)

FT会60周年記念式典 開催のお知らせ

FT会は創立60周年を迎えます。この節目の年を記念し、本年度開催のFT会総会において「FT会60周年記念式典」を執り行うことが正式に決定いたしました。

◆開催予定日：2025年11月8日(土)

◆会場：日本大学生物資源科学部

藤沢校舎 学生食堂棟

詳細についてはFT会HP (<https://ftkai.net/>) をご確認ください。

(成澤 直規)

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室

0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸

E-mail: kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

令和7年度総会の報告

令和7年6月19日に、令和7年度拓友会総会が開催されました。第1号議案として、令和6年度活動報告ならびに決算報告、第2号議案として、令和7年度活動計画ならびに予算案が審議され、事務局提出案が承認されました。

令和6年度海外研修報告

2024年9月6日から16日にかけて、ウガンダ海外研修が実施されました。

本研修は、ウガンダに所在するNacRRI（稲作試験場）およびUWESO（女性支援NGO）などとの連携によって実現したものです。両機関には、拓友会の校友である宮本輝尚さん（2002年度卒）、山崎るうなさん（2020年度卒）、新井佐和さん（2021年度卒）らが勤務しており、現地でのきめ細やかなサポートを受けながら、社会調査、文化交流、農業実習など多様なプログラムに取り組みました。

具体的には、首都カンパラでのマーケット調査、マユゲにあるNacRRIでの農業環境と技術に関する講習、ムバレのUWESOでの社会開発に関する現状視察、アタリ農村での農家へのインタビュー調査と農業実習、さらにジンジャでのナイル川源流周辺の観光資源調査などを行いました。

参加者は、国際地域開発学科から3名、新設された国際共生学科の2年生が7名、さらに同研修を引率した佐々木大先生が所属するアグリサイエンス学

子どもたちにトマトの苗木について説明する重田君（令和6年度卒）



UWESOにて、社会開発の現状と課題を学びました

科の学生1名の合計10名で構成されました。これにより3学科の特徴が相互作用し、社会開発と農業技術の両面から現地を多角的に学ぶ貴重な機会となりました。また拓友会からの支援で帰国報告会も実施され、北原会長に報告する機会をいただくことができました。



帰国報告を受ける北原会長（左）と報告する学生たち

令和6年度拓友賞授与

令和6年度の拓友賞は、田仲祐里佳さんが国際地域開発学科より推薦され、令和6年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



田仲祐里佳さん（左）、北原幸典会長（右）

卒業者の進路状況について

令和6年度卒業者の進路状況は、就職112名、就職活動中3名、進学2名、その他18名となり、就職希望者（115名）に対する就職率は97.4%となりました。

JICA 海外協力隊派遣状況

（派遣中）

新井佐和（コミュニティ開発）：

令和6年6月より2年間（2022年卒）、ウガンダ
金井美紀（食用作物・稲作栽培）：

令和6年4月より2年間（2023年卒）、ウガンダ
尾出悠斗（食用作物・稲作栽培）：

令和7年4月より2年間（2024年卒）、ウガンダ
田仲祐里佳（食用作物・稲作栽培）：

令和7年7月より2年間（2025年卒）、ウガンダ（帰国）

山崎るうな（食用作物・稲作栽培）：

令和5年4月より2年間、ウガンダ。
現在 JICA 筑波センター勤務

辻愛友（食用作物・稲作栽培）：

令和4年1月より2年間、ウガンダ。
現在大学院生として在学中

在学生の近況

令和7年8月現在、1年生0名、2年生1名（男子1名）、3年生17名（男子12名・女子5名）、4年生126名（男子87名・女子39名）の合計144名（男子100名・女子44名）が在籍しています。

*令和5年度からの新学科の開設に対応して、IDSの1年生から3年生は留年した学生数となっております。ちなみに国際共生学科の1年生は160名（男子97名・女子63名）、2年生は164名（男子117名・女子47名）、3年生は129名（男子83名・女子46名）となっております。

本年度の研究室配置と所属教員

国際環境経済研究室

松本礼史 教授

国際環境保全学研究室

ロイキンシュック 教授

佐々木綾子 専任講師

国際協力研究室

飛田 哲 教授

福田聖子 専任講師

国際経営・流通研究室

李 裕敬 准教授

国際経済研究室

石田正美 教授

国際社会研究室

山下哲平 准教授

熱帯資源作物研究室

倉内伸幸 教授

加藤 太 教授

佐々木大 専任講師

農業経済研究室

菊地 香 准教授

比較文化研究室

園江 満 専任講師

学科事務室

田中結依花 粕川博美

以上、15名（教授6名、准教授3名、専任講師4名、学科事務室2名）で運営しております。

訃報

拓植学科卒業（昭和40年入学）で、長年本学科で教鞭をとられた井上雅也先生が令和6年11月17日に逝去されました。特に韓国との比較文化研究で多大な業績をあげられ、朗らかな性格で多くの学生に親しまれていました。心よりご冥福をお祈りいたします。（山下 哲平）



応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

学科では、長らく加野教授が学科主任・責任者を務めてこられましたが、4月より高橋教授が学科責任者に就任されました。学科体制の再編のため応用生物科学科の新入生はおらず、4年生(148名)が最後の学生となります。昨年度は108名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

高野英晃教授の研究グループが、光によって組換え微生物をコントロールできる新技術を開発しました。LED光源を用いるため環境にやさしい低コスト技術で、精密発酵の基盤技術となることが見込まれます。また西山辰也専任講師の研究グループは、ウイルスの残骸が宿主細菌の集団構造形成と繁殖を制御する仕組みを解明しました。さらに生命工学研究室所属の



学生実験の様子

野谷龍太さんが、第38回日本放線菌学会で優秀ポスター賞を受賞しました。また分子免疫生物学研究室の大森慶河さんが、日本食品免疫学会設立20周年記念学術大会においてポスター賞を受賞しました。本学科の卒業生で、一般教養に所属している秋田佳恵専任講師が、日本バイオイメージング学会奨励賞を受賞しました。皆様おめでとうございます。詳細は学部及びバイオサイエンス学科のホームページに記載していますので、ご覧ください(QRコード参照)。



バイオサイエンス学科HP



学部HP

現在の研究室の体制は以下の通りです。

核酸・蛋白質科学研究室

新井直人 准教授(バイオサイエンス学科)

舩廣善和 准教授(バイオサイエンス学科)

生命工学研究室

上田賢志 教授(バイオサイエンス学科)

高野英晃 教授(バイオサイエンス学科)

西山辰也 専任講師(バイオサイエンス学科)

分子微生物学研究室

岩淵範之 准教授(バイオサイエンス学科)

植物細胞学研究室

内山寛 教授(バイオサイエンス学科)

生体分子学研究室

明石智義 教授(バイオサイエンス学科)

動物生体機構学研究室

加野浩一郎 教授(動物学科)

沖嘉尚 専任講師(動物学科)

細胞機能調節学研究室

苦名充 准教授(海洋生物学科)

分子免疫生物学研究室

高橋恭子 准教授(動物学科)

中西祐輔 専任講師(動物学科)

学科への支援事業

学科では新入生がいなくなり、従来通りの支援はできませんでした。卒業生はコロナ禍に入学し、これまで十分な支援できなかったため、卒業記念品として全員にQUOカードを贈呈しました。なお学位伝達式では、佐藤優真さん、加藤志門さん、鎌田真生子さんの3名が、優等賞および学部長賞を受賞されました。

事務局より

改組により教員の所属はバイオサイエンス学科、動物学科、海洋生物学科に移動しました。応用生物科学科校友会も在学生在がすべて卒業するまで存続します。しかにその後は、「準分会」として存続していく可能性があります。なお住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。

(明石 智義)



学位授与・伝達式の風景



学位授与・伝達式での賞の授与

くらしの生物学科校友会

くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室

0466-84-3743 事務局長 新町 文絵

E-mail: brs.kurashi.ko-u@nihon-u.ac.jp

くらしの生物学科の近況

本年度くらしの生物学科は、
くらしの園芸

新町文絵 教授

(学科責任者：バイオサイエンス)

水野真二 准教授 (アグリサイエンス)

動物のいるくらし

恒川直樹 教授 (獣医保健看護)

金澤朋子 助教 (動物)

くらしの微生物

光澤 浩 教授 (バイオサイエンス)

相澤朋子 専任講師 (バイオサイエンス)

くらしのバイオ

炭山大輔 准教授 (環境)

安齋 寛 特任教授

食と健康

山下正道 准教授 (食品開発)

近藤春美 准教授 (バイオサイエンス)

住まいと環境

小谷幸司 教授 (国際共生)

小島仁志 助教 (環境)

学科事務室

巢籠和菜 実習助手

の13名()内は新学科での所属)で運営しています。学部改組に伴い、3月に金澤先生が5号館3階に、近藤先生が生命科学研究所3階に、山下が12号館3階に、5月に小島先生が12号館1階に移動しました。今後、獣医看護保健学科の先生が来られる予定です。また5月に学科事務室の巢籠さ

んが育休から戻られました。さらに炭山先生が9月から12月までオーストラリアのニューカッスル大学に中期海外派遣研究員として出張されています。

なお本年7月1日現在で4年生81名、3年生2名の計83名の準会員が在籍しています。すべての在籍生が卒業するまで、しっかりと指導致します。

学科の活動として、3年次の必修科目「ボランティア活動」は無事に実地活動を終了し、令和7年1月23日に対面形式で発表会を実施しました。

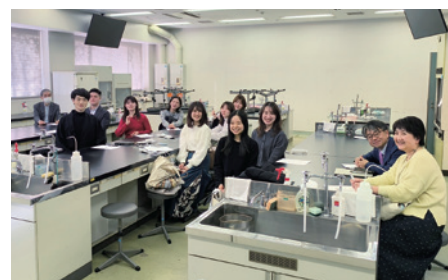
また2月14日には第7回の学科卒業研究発表会が対面形式で開催されました。4年生だけでなく、研究室に所属している3年生も参加し、77件の研究発表があり、活発な質疑応答がおこなわれました。

3月23日には、卒業パーティーが横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズで開催され、多くの4年生が参加しました(写真1)。コロナ下での入学から通常の生活に戻るプロセスの中での4年間の思えば、卒業パーティーを開催できたことはとても嬉しく、思い出に残るパーティーになったことと思います。

続く3月25日の学科の学位記授与式は、体育館での学部全体での卒業式後に開催されました。学科責任者の新町先生から一人一人に学位記が渡され(写真2)、7期生75名が卒業し、新たに校友となりました。学位記授与の後は5分咲きの桜のもと記念撮影をする姿があちこちで、また5号館で各研究室を巡っての記念撮影などが見られました。4月中旬における卒業後の進路は64名が就職し、2名が大学院へ進学しました。

くらしの生物学科 校友会の活動報告

くらしの生物学科の第6回校友会総会が2月22日に5号館 512実験室でおこなわれました(写真3)。引き続き懇親会が食堂棟2階でおこなわれ、1～6期生が旧交を温めました(写真4)。また総会での了承を経て3月にメール審議で次期役員を選出することになりました。令和7年度の校友会総会については追って御連絡致します。



校友会総会の様子(写真3)



校友会懇親会の様子(写真4)

校友会から卒業生への卒業記念品として、令和6年度も卒業生のアルバム委員会を中心に卒業アルバムを編集し、卒業生全員に贈呈、学科に1冊を寄贈しました。

くらしの生物学科校友会事務局より

事務局への御連絡、および卒業時に届け出たメールアドレスや連絡先住所、勤務先、氏名などの変更がありましたら、事務局長までお願い致します。
(山下 正道)



卒業パーティー後の集合写真(写真1)



学位記授与の様子(写真2)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14
支部長：鎌田 雅敬 事務局長：早坂 睦雄
TEL携帯：080-5579-5456 FAX.022-378-6592
E-mail: mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はR7年度で22周年を迎えました。

■R7.6.21. 仙台市内で第19回総会を「エル・パーク仙台」で、懇親会を「エスカイヤクラブ仙台店」で開催しました。会員6名の出席、日本大学校友会宮城県支部より渡邊和幸支部長をはじめ芸術学部宮城江古田会会長、山形県支部長と幹事長の来賓4名のご臨席をいただき審議され、R6年度決算及びR7年度計画予算について了承されました。懇親会では各人3分間スピーチを行い、次の再会を楽しみにしてお開きとなりました。



集合写真

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail: kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

■第30回生物資源科学部校友会
山形支部総会

令和6年11月16日(土)、山形国際ホテルを会場に第30回目の記念総会を会員19名の参加と、来賓として生物資源科学部校友会より津曲茂久相談役、日本大学山形高等学校教頭の林光彦氏、日本大学校友会山形県支部長の篠原みゑ子氏、日本大学校友会各学部の県支部長10名にご臨席を頂き開催されました。



総会風景

《記念講演》

一般社団法人湘南健康長寿研究会副会長でもある津曲茂久氏より、演題『転ばぬ先の杖「認知症を遠ざけるヒント」』と題し記念講演をいただきました。

質の良い睡眠の重要性、睡眠改善や腸内環境を整えるための食生活のアドバイス等

■NU校友会宮城県支部役員会

R7.5.20.「江陽グランドホテル」4Fで開催、鎌田支部長が出席。

■NU学部校友会本部通常総会

R7.7.12. 藤沢市六会・生物資源科学部本館NUホールAで開催、出席者鈴木博朗会員。

■NU校友会宮城県支部総会・懇親会

R7.7.23.「江陽グランドホテル」で開催、鎌田支部長が出席。

■宮城県支部開催「第7回仙山交流会」

R7年度開催について検討中。

■NU学部校友会山形県支部総会・懇親会

R7.11.15.(土) 山形市内。出席者：鎌田支部長 他出席予定。

■NU学部校友会宮城県支部役員会・会員交流会

R7.11月 or 12月。仙台市内開催予定。

■NU校友会宮城県支部R9年新年名刺交換会

R8.1月開催予定。

についてわかりやすい内容での講演でした。

その後、学部の現況報告をお聞きし、津曲氏から池田支部長へ記念事業補助金の贈呈がありました。



講演風景

記念事業
補助金贈呈

《懇親会》

来賓を代表して校友会山形県支部長の篠原みゑ子氏のご挨拶をいただき、宮城県支部支部長の鎌田雅敬氏の乾杯で懇親会がスタートしました。

恒例による学科単位で登壇しての近況報告、最後は皆で声高らかに校歌斉唱で盛り上がりしました。



集合写真

■ローカルトピックス

『豊漁を願い 御座船出発』

海の日7月21日に、宮城県塩釜市で第78回目の「塩釜みなと祭」が開催されました。地元市内にある塩釜神社と志和彦神社の神輿を載せた御座線「鳳凰丸」と「龍鳳丸」が、雅楽や太鼓の音色が響く荘厳な雰囲気の中、大勢の氏子やスタッフ、多くの市民や観光客に見守られながら、塩釜湾と松島湾を巡りました。



御座船 龍鳳丸

御座船 鳳凰丸

■会員の状況 (R7年現在 29名)

※卒業生・富嶽会1名・紫友会1名・角笛会1名・満喜楽会4名・いもづる会5名・あすなろ会4名・桜水会2名・工学会5名・FT会3名・拓友会2名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校東北高等学校 (文責者 早坂睦雄)

■会員紹介

バイオサイエンス学科(農芸化学科)

昭和46年卒 村山 正則

昭和46年農芸化学科を卒業し山形県職員(食品衛生監視員)として就職。

以来、保健所衛生課に所属し県内を転勤しながら定年まで勤務しました。

食品衛生監視員の資格を得るものは、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、農芸化学科を卒業した者と食品衛生法で規定されています。(現在は一部変更になっている)

業務の内容は飲食店等の許認可、食品製造に係る衛生管理食中毒予防等が主な仕事です。

特に食中毒では医師が食中毒と診断した場合には24時間以内に保健所に届け出をしなければならないことになっており、すぐに疫学調査や原因究明に努めなければなりません。

原因施設が食品営業施設等の場合営業停止等の行政処分をしなければならず大変重い責任が課せられています。

農芸化学科を卒業したことで地方公務員として長年にわたり勤務できたことに感謝します。

最後になりますが同窓の皆さまの益々のご活躍を祈念します。

(幹事長 渡部秀実)

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 食品開発学科
食品資源利用学研究室 鳥居恭好（事務局長）
E-mail: torii.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

私も神奈川県支部の活動は、学部より畑地を借用して行う野菜の生産と、会員相互の親睦を目的とした懇親会を主な柱としております。

野菜の生産につきましては、今年の異常気象の影響により、生育不良や害虫の発生、さらには雨不足など、厳しい環境下に置かれています。特に今年の畑作業では、気温が40度近い日が続き、総ての野菜の発芽条件が著しく悪化。冷蔵庫での保存を試みても発芽効果はほとんど見られず、発芽率はゼロに近い状況でした。酷暑の影響で、圃場で育てた



ナスの手入れと収穫

里芋にはハダニの発生が多く見られ、加えて雨不足が育

成に大きな影響を及ぼしました。例年9月にそば種（信濃1号）を1kg



そばの播種

収穫し製粉を行い、新そばの試食会を行っております。製粉はアグリサイエンス学科の倉内教授が教材として所有する製粉機を借用し、製粉したそば粉は会員のそば打ち名人が美味しい「そば」に仕上げて、会員全員で試食しています。

ただ、去年はほとんどそばの実が入っておらず僅かな収穫量でした。今年は、9月上旬の集中豪雨で播種時期が遅れました。近年の異常気象が農作業・作物の生育に深刻な影響を与えていることを日々実感しております。

また、2年前より地元の社会福祉協議会の協賛を受け、畑で収穫した野菜の一部（約700kg）を「フードバンクや子ども食堂」へ提供する社会貢献活動を継続しております。これらの取り組みは、日本大学校友会会誌『桜縁』2025

年7月号（No.46）61頁にて、生物資源科学部校友会「農作業で野菜を生産」畑から広がる思いやりの輪として紹介されました。

さらに、支部活動の本筋として、在校生への支援にも力を入れております。学生課の仲介と協賛を得て、ジャガイモ（正味83kg）とタマネギ（正味65kg）を無償で学食に提供し、ジャガイモはフライドポテト、タマネギは冷やしスープとしてメニュー化されました。これらの料理は学生の評判が良く数日で完売となりました。

今後も神奈川県支部は会員の親睦、学部や地域と連携しながら、支部活動を通じて社会への貢献と学生支援に努めてまいります。（支部長 稗貫 峻）



新そば試食会

高知県支部だより

連絡先
〒785-0610 高知県高岡郡梼原町梼原 1173-2
高知県支部事務局長 来米 豊史（くるめとよのり）
Tel: 090-3187-4207
E-mail: kurume@flute.ocn.ne.jp

去年は諸事情により夏の開催を見送りましたが、本年は1月25日、おなじみの会場である宮尾富子作「陽暉楼」の舞台となった得月楼にて開催いたしました。

今回は時節柄もあり来賓のお招きには至らず、参加者18名での集まりとなりました。夏季開催では参加が難しかった若い会員の方々にもご出席いただき、今後の会の在り方について活発な



会食風景



会場



土佐の皿鉢料理

意見交換が行われました。

特に、新会員の入会がほとんどない中で、活動をどのように継続していくかが大きな議題となりました。個人情報保護の観点から新会員勧誘は口コミに頼らざるを得ず、そのため現役生や卒業生の入会が進まない状況も共有されました。会の存続をいかに図るか、また今一度この会の意義を確認し、今後の活動へとつなげていかなければならないこと

を改めて認識する機会となりました。明確な結論には至らなかったものの、議論を経て懇親会に移り、親睦を深める場となりました。

この悩みは他の校友会にも共通する課題であると感じております。今後は他団体の取り組みや活動事例も参考にしながら、より良い活動の形を模索してまいりたいと思います。

最後に、昭和56年度卒業世代として、学校も社会環境も大きく変わる時代の変化の中にあっても母校の発展を心より祈念いたします。



会員各位

学部校友会事務局からのお知らせ

1 卒業生の動向について

平成27年度から令和6年度までの10年の年度別卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

(単位:人)

区 分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
卒業生数	1,848	1,675	1,704	1,799	1,670	1,566	1,557	1,589	1,537	1,538
内 訳	学部生	1,601	1,603	1,614	1,715	1,581	1,480	1,482	1,520	1,443
	短大生	149	—	—	—	—	—	—	—	—
	大学院生	98	72	90	84	89	86	75	69	95
延べ卒業生数	96,946	98,621	100,325	102,124	103,794	105,360	106,917	108,506	110,043	111,581

※ 短期大学部は平成27年度をもって廃止されました。

2 藤桜祭の開催について

令和7年度の藤桜祭は、10月25、26日(土、日)の両日学内で開催されます。

学部校友会では、事務局会議室(2号館2階)を休憩場所として開放しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

3 通常総会及び懇親会の開催について

通常総会及び懇親会は、毎年7月の第2土曜日に開催します。

令和8年度は以下のとおり開催します。

(1) 通常総会

ア 日時:令和8年7月11日(土) 午後2時から

イ 場所:日本大学生物資源科学部 本館 NU ホール A

(2) 懇親会

ア 日時:同日 午後4時30分から

イ 場所:日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

なお、令和7年度は、令和7年7月12日に開催しました。

◎ お願い

掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、あるいは今後の会報発送不要等のご連絡は、各学科校友会及び都道府県支部の記事掲載ページに記載してあります連絡先までお願いします。

令和7年度の
役員名簿は ➡
コチラ



発行所

日本大学生物資源科学部校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

印刷所:(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561